

	音楽研究会 部会記録				
日時	平成30年9月5日(水) 15:30～16:45				
部会名	音楽づくり			主任	菊地 美保
参加数	14人	司会	加藤 瑠美子	記録	竹中 美穂子
研究部 研究テーマ：子どもの意識の流れを生かし、音楽能力の高まりを目指した授業のあり方 部会テーマ：一人ひとりの発想を生かし、思いや意図をもって音楽をつくる活動					
研 究 内 容	○基礎提案 「2～4年生の音楽づくりについて」 ・2年生では、反復などの仕組みをとらえながら、リズムづくりができるようにする。 ・3年生では、反復や変化をねらい、自分のリズムと友達のリズムをつなげたり重ねたりする。 また、図形譜を扱うことで、思いや意図を目に見える形で表すことができるようにする。 ・4年生では、図形譜を用いることで強弱を含んだ表現に思いをもてるようにする。また、楽器の特性を生かして、リズムを表したり他の楽器と組み合わせたりする活動をする。今までの経験を生かして広がっていく、高学年向きの活動だと感じる。				
	○実践提案 「音楽の仕組みを生かし、音楽をつくろう」 4年生 ・39人という大人数の中で、場の設定が難しかった。 ・音の重なりを意図して3人グループにしたが、教師が全グループを時間内に回ることが困難なため、2つのグループで聴き合いながら活動できるよう、6人で活動する流れにした。 ・低学年の時に打楽器に親しむ経験が少なかったため、第1時でリズムカードを手や足で表現してから打楽器で表現できるようにした。 ・楽器に思いをもち、特性を踏まえた上でどの楽器で表したいか考えている姿が見られた。 (協議) ・木でできた楽器など、クレシェンドの図形を表現するのが難しい楽器もある。 →音は途切れてしまうが、繰り返し叩きながら強弱を表現してもよい。それぞれの楽器で、どのように表現できるかを考えることが大切。 ・グループ内で金属の楽器か木の楽器を考えていたが、他の組み合わせでもよいのではないかな。音色を味わい、楽器の特性を理解した上で、どの楽器を組み合わせで音楽をつくりたいか考えられるようにしたい。				
	○12月研究授業について ・子どもの実態として、能力が高く、3年生の「まほうの音楽」での活動も意欲的に取り組んでいた。 ・迷っていることは ①ルールづくり ②楽器 ③共通事項の3点。 ① 既習の“技”の中から、子どもたちが表したいものを選ぶこともできる。 (反復、よびかけと答え、つなげる、同じリズムを重ねる、ちがうリズムを重ねる など) はじめとおわりは、まとまりの音楽をつくるために構成として必要。 音楽の長さは、適度なものをモデル演奏やワークシートの大きさなどで提示する。				
	② 楽器の選び方については、一人ひとりが思いをもって楽器を選んだ上で意図的にグループ分けをするか、グループの中で楽器の種類を決めるか、どちらがよいのか。 →より思いや意図をもてる方法を検討するため、来月の実践提案は両方の方法で行う				
	③ 音色だけでなく、強弱をしっかりと狙いたい。ただし、個人での強弱なのか、グループとしての強弱なのかを提示しなくてはいけない。また、仕組みとしては変化を狙うがよいのではないかな。				